



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2020年2月5日

上場会社名 株式会社フレアス 上場取引所 東
 コード番号 7062 URL https://fureasu.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)澤登 拓
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員財務経理部長 (氏名)佐藤 真悟 (TEL)03(6632)9210
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績 (2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,981	5.5	69	△71.4	112	△59.9	60	△66.6
2019年3月期第3四半期	2,826	—	243	—	280	—	182	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	26.20	25.12
2019年3月期第3四半期	91.05	—

- (注) 1. 2018年3月期第3四半期については四半期財務諸表を作成していないため、2019年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
 2. 2019年1月8日付けで普通株式1株につき普通株式20株の割合で株式分割を行っておりますが、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。
 3. 2019年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であったことにより、期中平均株価が算定できないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,387	1,501	62.9
2019年3月期	2,491	1,307	52.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,501百万円 2019年3月期 1,307百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,981	7.3	0	△99.7	41	△86.6	6	△96.2	2.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	2,328,600株	2019年3月期	2,250,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	一株	2019年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	2,322,312株	2019年3月期3Q	2,000,000株

(注) 2019年1月8日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っておりますが、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続いているものの、米国の保護主義的姿勢の高まり等の影響により依然として不透明な状況が続いております。

当社が属する在宅マッサージ業界及び訪問看護業界におきましては、少子高齢化が加速する一方で、医療機関における病床数の減少が見込まれるとともに、特別養護老人ホーム等の介護施設の待機者数は、年々増加傾向にあり、政府による地域包括ケアシステムの構築の推進活動と相俟って、在宅療養の重要性がますます高まってきております。

このような状況のもと、当社では、主要事業であるマッサージ事業において、首都圏に次いで高齢者人口の多い大阪地域で初めての新店となる吹田事業所に加えて、首都圏エリアにおいても多摩稲城事業所を開設するなど、積極的にサービス提供エリアの拡充を図るとともに、既存事業所においてもサービス品質の向上を図るべく人員の確保及び人材育成に取り組んでまいりました。また、マッサージ事業の非連続的成長の実現により、利用者のさらなる増大を図るための事業戦略として介護施設等の法人営業の強化に取り組んでおりますが、そのためのサービス提供エリアのさらなる拡充を目的としてフランチャイズ事業の本格展開を開始いたしました。

株式会社星野リゾートとの業務提携につきましては、同社が運営する宿泊施設「リゾナーレ」において、新たにリゾナーレ熱海及びリゾナーレ那須でのサービス提供を開始し、また同様に「星のや」においても新たに星のや京都でのサービス提供を開始するなど、サービス提供施設数の増加に取り組んでまいりました。これにより、同社が運営する宿泊施設のうち当社がサービス提供している施設は「界」12施設、「リゾナーレ」3施設及び「星のや」1施設となりました。

一方で、あん摩マッサージ指圧師及び営業スタッフである相談員の不足人員に対する早期確保に起因して、1人あたりの採用コストが上昇したことにより販売費及び一般管理費が増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,981,512千円（前年同四半期比5.5%増）、営業利益は69,518千円（前年同四半期比71.4%減）、経常利益は112,687千円（前年同四半期比59.9%減）、四半期純利益は60,853千円（前年同四半期比66.6%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① マッサージ事業

マッサージ事業は、新規事業所の開設により新たな地域における利用者ニーズを取り込むとともに、既存店においても、当社サービスの認知度向上を目的として、ケアマネジャーへの営業訪問に引き続き取り組んでまいりました。また、マッサージ事業の事業譲受けによる利用者の増加や、訪問鍼灸事業の事業譲受け等による提供サービスの拡充など、収益力のさらなる向上に取り組んでまいりました。一方で、不足人員の早期確保に起因して、採用コストが増加いたしました。

以上の結果、売上高は2,748,864千円（前年同四半期比6.1%増）、セグメント利益は576,508千円（前年同四半期比9.5%減）となりました。

② その他の事業

その他の事業セグメントに含まれる主な事業である訪問看護事業は、地域のケアマネジャーに対する営業の強化を通じて、当社サービスの認知活動を推進してまいりました。一方で、売上高の増加に応じた人員の採用や退職者の補充採用に伴い、採用コストが増加いたしました。

以上の結果、売上高は232,648千円（前年同四半期比1.5%減）、セグメント利益は22,514千円（前年同四半期比20.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産は2,249,955千円となり、前事業年度末に比べ113,694千円減少いたしました。これは主に、売上高の増加に伴い売掛金が118,857千円増加した一方で、法人税等の納付等により現金及び預金が283,757千円減少したことによるものであります。

固定資産は、137,944千円となり、前事業年度末に比べ9,970千円増加いたしました。これは主に、事業譲受けに伴ってのれんを16,028千円計上したことによるものであります。

この結果、総資産は2,387,900千円となり、前事業年度末に比べ103,723千円減少いたしました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債は505,316千円となり、前事業年度末に比べ176,475千円減少いたしました。これは主に、未払法人税等が156,043千円減少したこと、及び1年内返済予定の長期借入金が42,497千円減少したことによるものであります。

固定負債は380,794千円となり、前事業年度末に比べ121,879千円減少いたしました。これは主に、長期借入金が117,168千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は886,110千円となり、前事業年度末に比べ298,354千円減少いたしました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は1,501,789千円となり、前事業年度末に比べ194,630千円増加いたしました。これは、第三者割当増資による株式の発行に伴い資本金及び資本剰余金がそれぞれ66,888千円増加したこと、及び四半期純利益を60,853千円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、寝たきり等の理由により歩行困難なため、通院ができず自宅や介護施設において療養生活を余儀なくされている高齢者等の利用者に対して、あん摩マッサージ指圧師が利用者の自宅等を訪問して、マッサージサービスを提供しておりますが、冬季においては、利用者の中でインフルエンザ等の季節性の疾患が流行することによって、想定を超えたサービス提供の休止が発生することがあります。

そのため、当第3四半期累計期間においては、売上高2,981,512千円、営業利益69,518千円、経常利益112,687千円、四半期純利益60,853千円となりましたが、上記のリスクを踏まえ現時点では2019年11月1日に公表しました業績予想の変更は致しておりません。

なお、当該業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,365,964	1,082,206
売掛金	976,226	1,095,083
貯蔵品	919	2,391
未収還付法人税等	—	34,811
その他	25,421	41,264
貸倒引当金	△4,882	△5,801
流動資産合計	2,363,649	2,249,955
固定資産		
有形固定資産	24,347	21,870
無形固定資産	32,974	53,117
投資その他の資産	70,651	62,956
固定資産合計	127,974	137,944
資産合計	2,491,623	2,387,900

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	222,707	180,210
未払法人税等	156,043	—
賞与引当金	70,811	35,472
その他	232,229	289,633
流動負債合計	681,792	505,316
固定負債		
社債	140,000	130,000
長期借入金	343,750	226,582
退職給付引当金	18,923	21,212
その他	—	3,000
固定負債合計	502,673	380,794
負債合計	1,184,465	886,110
純資産の部		
株主資本		
資本金	222,750	289,638
資本剰余金	212,750	279,638
利益剰余金	871,658	932,512
株主資本合計	1,307,158	1,501,789
純資産合計	1,307,158	1,501,789
負債純資産合計	2,491,623	2,387,900

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	2,826,061	2,981,512
売上原価	1,557,044	1,666,654
売上総利益	1,269,016	1,314,857
販売費及び一般管理費	1,025,886	1,245,339
営業利益	243,130	69,518
営業外収益		
助成金収入	43,527	43,741
その他	1,603	3,511
営業外収益合計	45,130	47,252
営業外費用		
支払利息	3,502	2,400
株式公開費用	2,120	119
その他	1,824	1,563
営業外費用合計	7,447	4,082
経常利益	280,813	112,687
特別利益		
固定資産売却益	1,025	—
特別利益合計	1,025	—
特別損失		
固定資産除却損	0	—
特別損失合計	0	—
税引前四半期純利益	281,839	112,687
法人税、住民税及び事業税	99,209	34,287
法人税等調整額	525	17,546
法人税等合計	99,735	51,834
四半期純利益	182,103	60,853

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年4月23日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資による新株式78,600株の発行により、資本金及び資本準備金がそれぞれ66,888千円増加しております。

この結果、当第3四半期会計期間末において、資本金が289,638千円、資本剰余金が279,638千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期財務諸表 計上額 (注) 3
	マッサージ	計			
売上高					
外部顧客への売上高	2,748,864	2,748,864	232,648	—	2,981,512
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,748,864	2,748,864	232,648	—	2,981,512
セグメント利益	576,508	576,508	22,514	△529,505	69,518

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、訪問看護事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。